



東京芸術劇場30周年記念展覧会 2020年度豊島区美術企画展

# 池袋への道—近世の歴史資料、池袋モンパルナス、森山大道

豊島区、風景から地層へ

IKEBUKURO, the Multi-Layered City:  
early modern records, Ikebukuro Montparnasse, and Moriyama Daido

## 記憶の積層——「池袋への道」展に寄せて

近世の古地図や鬼子母神堂の絵馬から池袋モンパルナスの画家たちの絵画へ、  
焼跡とヤミ市の記憶、そして森山大道の写真へ

池袋ではいま、周辺の再開発のため、また東京オリンピック・パラリンピック競技大会への対応のため、建設工事が相次いでいます。これまでも大きな変貌を遂げてきたこの街に、また新たな表情が加えられていくことでしょう。押しとどめようもない変貌の一方で、池袋はたくさんの記憶を蓄えたまま現在に至る、記憶のレイヤー（積層）の街でもあります。

この展覧会は、そうした池袋の豊かな記憶を、近世の古地図や鬼子母神堂の絵馬など歴史的・民俗的資料や、主に大正から昭和前期までを中心とする時期に描かれた絵画、そして2003年以降この街で暮らし、周囲を撮影し続けてきた写真家・森山大道による近作・新作によってたどります。

近世にはのどかな畑の風景が続いていた池袋は、20世紀の初めに山手線の敷設にともない駅ができた頃から、次第に首都の重要なターミナルの一つとして発展していきます。川上涼花作《鉄路》(1912年)は、切り通しを疾走する電車が鮮やかな色彩で描かれた佳作ですが、今日の池

袋へと至る、自然から都市への移り変わりの様子を伝えている面もあります。この街には後に「池袋モンパルナス」と呼ばれる芸術家村が点在することになりますが、大正モダニズムの自由な気風を負った画家たちは、都市化していく環境のなかにも、生命の輝きを発見しようと試みたといえるでしょう。この芸術家村が北海道、東北、九州、沖縄といった遠隔の地方のみならず、朝鮮半島、台湾など当時の植民地とされた地域からの留学生や画家の卵の集う場所であったことは、池袋の懐の深さを感じさせます。小熊秀雄をはじめとする池袋モンパルナスの画家たちの展示作品を通じて、この街がつねに備えている自由でオープンな性格に触れることができるでしょう。

1945年の度重なる空襲で豊島区域の7割が灰燼に帰し、戦後池袋駅周辺にいわゆる「ヤミ市」ができたことは、池袋にとって、一つのキャラクターを決めた出来事でしょう。森山大道は「ヤミ市」の記憶を、現在の池袋のどこかに気配のようなものとして探しながら、日々街と対話

するようして撮り続けています。街との相互関係によって生み出される百数十点に及ぶ作品は、池袋の多面的な魅力を伝えています。

この展覧会の大きな特徴として、豊島区立郷土資料館、東京芸術劇場、そして鬼子母神堂の3か所を展示会場にしていることが挙げられます。いずれもそう遠くない距離にあります。すべての展示作品を鑑賞するためには、少し歩いて「はしご」しなければなりません。現実の街の様相と、過去に制作された池袋をモチーフにした展示作品とを比べてみることも、思いがけない気づきや発見につながるのではないのでしょうか。たとえば東京芸術劇場→豊島区立郷土資料館→鬼子母神堂の順に見ていくと、森山大道の写真から池袋モンパルナスの画家たちによる戦前の絵画を経て、鬼子母神堂にたどり着きます。いわば池袋の歴史を自然にさかのぼっていく旅です。池袋という街が本来備えている文化資源の豊かさを、歴史的な積み重なりと地理的な拮がりのなかで立体的に感じていただければ幸いです。

文：倉石信乃／ゲスト・キュレーター（明治大学教授）

### 展覧会構成

#### 1章 森山大道

東京芸術劇場アトリエウエスト

森山大道の写真作品 100 余点。中国系および台湾系移民のコミュニティの映像。池袋の「いま」をご覧ください。

#### 2章 戦後池袋—混沌の記憶と子ども

東京芸術劇場アトリエイースト

戦後すぐの光景を描いた作品からは、1940年代から50年代にかけての復興の在りようがうかがえるでしょう。あわせて鬼子母神堂を写真で紹介いたします。

関連事業あり 詳しくはHPへ: [www.geigeki.jp](http://www.geigeki.jp)

#### 3章 池袋モンパルナス、大正、明治、江戸

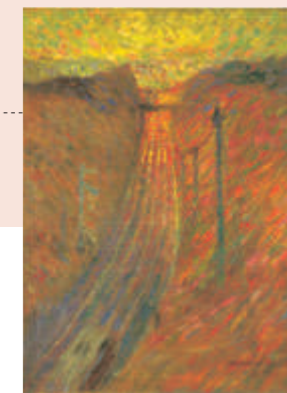
豊島区立郷土資料館企画展示室

小熊秀雄、麻生三郎、萬鉄五郎、川上涼花、田中恭吉、鹿子木孟郎、そして江戸傍近図…これらはすべて豊島区ゆかりのものです。

#### 4章 雑司ヶ谷鬼子母神堂

〈特別会場〉

1578年の創建から現在に至るまで、鬼子母神堂と奉納された絵馬たちは、豊島区域を見守り続けています。



川上涼花《鉄路》  
1912年、油彩・カンヴァス、  
東京国立近代美術館蔵

森山大道『記録』43号より  
2020年、インクジェットプリント、  
一般財団法人森山大道写真財団蔵



小熊秀雄《夕陽の立教大学》  
1935年、油彩・カンヴァス、豊島区蔵



唐子遊び図  
1811年、板金地著色、雑司ヶ谷鬼子母神堂蔵



池袋駅東口ヤミ市模型  
1984年、豊島区立郷土資料館蔵

### 「池袋への道」展 ～森山大道と 都市の記憶

文：三谷淳  
(東京芸術劇場 社会共担当係長)

「池袋はいろんなエレメントがぎゅっと詰まっている、いろんなものがレイヤーになっているという感覚がある。」  
これは、2017年に東京芸術劇場と立教大学が共同主催で実施した連携講座『池袋学—都市の体温—池袋の想像力—』で森山大道が語った言葉だ。そして、今回の展覧会の着想点である。

人も建物も歳をとる。歳をとることは、時間と記憶を

積み重ねることだ。それが都市の皮膚となり匂いにもなっていく。そうならば、池袋はどのような皮膚を纏い、どのような匂いがする都市なのだろうか。

本展覧会では、森山が池袋界隈で撮った百数十点に及ぶ大量のモノクローム作品がアトリエウエストに展示される。「いま」を写した瞬間の積み重ねから連なる視覚的イメージを通し、多様なレイヤーを持つ池袋を知覚してほしい。

会場 1月23日(土)～2月28日(日) ※会場によって休館日が異なります 入館料:無料 詳細はHPへ

東京芸術劇場アトリエイースト、アトリエウエスト (B1F)

10:00-19:00【入室は18:30まで】 休館日:1/25、2/8、22【月曜】

豊島区立郷土資料館企画展示室 (常設展示室ヤミ市模型、アトリエ村模型含む)

豊島区西池袋 2-37-4 としま産業振興プラザ7階  
9:00-16:30【入室は16:00まで】 休館日:1/25、2/1、8、11、15、21、22、23【月曜(祝日の場合は翌日も)、第3日曜、祝日】

雑司ヶ谷鬼子母神堂〈特別会場〉

豊島区雑司が谷 3-15-20 9:00-17:00【堂内見学は平日のみ。要予約】 [www.kishimojin.jp](http://www.kishimojin.jp)

